



北海道公立大学法人
札幌医科大学
Sapporo Medical University

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title 論文題目	New predictive factor of aortic enlargement in uncomplicated Type B Aortic Dissection Based on Elliptic Fourier Analysis (楕円フーリエ解析法を用いた, 合併症を有さない急性 B 型大動脈解離に対する形態解析・拡大予測の検討)
Author(s) 著 者	佐藤, 宏
Degree number 学位記番号	甲第 2977 号
Degree name 学位の種別	博士 (医学)
Issue Date 学位取得年月日	2017-9-30
Original Article 原著論文	
Doc URL	
DOI	
Resource Version	

学位論文の内容の要旨

報 告 番 号	甲第 2977 号	氏 名	佐藤 宏
<p>論文題名</p> <p>楕円フーリエ解析法を用いた、合併症を有さない急性 B 型大動脈解離に対する形態解析・拡大予測の検討：偽腔開存型 80 例のデータ集積</p> <p>研究目的</p> <p>合併症を有さない急性 B 型大動脈解離に対しては保存療法が第 1 選択となるが、慢性期に瘤径拡大をきたし外科治療介入が必要と成る症例も存在する。早期に正確な拡大予測が可能となれば、より有用な治療が可能となる。今回、楕円フーリエ解析法を用いて大動脈解離の真腔に対し形態解析を行い、形態的要素が拡大予測因子と成りうるかを検討した。</p> <p>研究方法</p> <p>合併症を有さずかつ偽腔開存型の急性 B 型大動脈解離症例 80 例を、遠隔期に拡大を来した拡大群と拡大しなかった非拡大群の 2 群に分類した。80 例の真腔形態を CT 画像から抽出し、楕円フーリエ解析を行い、得られた形態要素を示す数値が拡大群・非拡大群の 2 群間で差があるかどうか比較検討した。同時に、従来から拡大予測因子として使用されている解離発症時の大動脈最大径・偽腔最大径も拡大予測因子として有用かどうか検討した。-----</p> <p>研究成績及び考察</p> <p>楕円フーリエ解析により得られた数値から、拡大群の真腔形態は非拡大群と比較して有意に低値をしめし、これはより真腔がつぶれた形態を示す数値と解釈された。また多変量解析より、楕円フーリエ解析による解析値は、大動脈最大径・偽腔最大径よりもより有用な拡大予測因子と成りうる結果であった。-----</p> <p>結論</p> <p>楕円フーリエ解析を用いて急性 B 型大動脈解離の真腔形態を解析・数値化することで、形態要素がより有用な拡大予測因子と成りうる結果となった。-----</p> <p>-----</p>			

論文審査の要旨及び担当者

(平成 29 年 9 月 29 日授与)

報告番号	甲第 2977 号	氏 名	佐 藤 宏
論文審査 担 当 者	主査 川原田 修義 教授	副査 三浦 哲嗣 教授	
	副査 土橋 和文 教授	委員 山陰 道明 教授	

論文題名	New predictor of aortic enlargement in uncomplicated Type B aortic dissection based on Elliptic Fourier analysis
結果の要旨	
<p>・合併症を有さない急性 B 型大動脈解離症例にたいし、楕円フーリエ解析法を用いて真腔の形態解析を行った。解析結果である主成分値が遠隔期の拡大予測因子として有用である結果であり、より有効な早期外科治療介入に繋がる可能性が示唆された。</p> <p>・主査・副査・委員の先生方の学位審査のもと、学位授与に値すると全員より認められた</p>	